

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100739		
法人名	社会福祉法人 溪仁会		
事業所名	グループホーム西円山の丘 3階		
所在地	札幌市中央区円山西町4丁目3番21号		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 団らんという理念の中で、ご利用者様一人一人が自己決定のもと生き生きと自信を持って生活を送れる様に、又、共同生活という今までとは違う空間での生活に対しても戸惑いやストレスに繋がらない様に、関わりを多く持ち支援している。 2. 医療等との連携については併設する西円山病院、福祉施設との連携も密であり、医療、リハビリ、介護とトータルでサポート出来る体制が整っており、ご利用者様、ご家族様の安心に繋がっている。 3. 地域町内会活動では、ダンボール堆肥、夏祭り参加、絵手紙サークル、キャンドルロード、ゴミ清掃など、関わる機会を設け、参加したご利用者様には笑顔が見られている。また是非参加したいという声も多く聞かれており、社会との関わりが薄くなりながら高齢者生活においてかけがえのない機会となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170100739-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170100739-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様一人一人のペースでの生活を主とした中で穏やかで、安らぎを感じる共同生活が送れる様に団らんという理念を共有し日々の支援を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙サークルでの作成や展示、短時間ではあるが町内会のゴミ清掃、夏祭りへの参加など地域活動への参加を通じ交流を図っている。また月に2回ボランティアで書道の先生を招き書道レクを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ダンボール堆肥を作成、提供し町内会の花壇作りに使っていただいている。ホームではレク係が中心となりご利用者様が日々のレクの時間などに作成した作品を展示会として見て頂く機会を設け発信している。展示会という場がご利用者様のやる気や喜びにも繋がっていると感じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議ではご家族様、町内会副会長、地域包括センター、民生委員、西円山病院地域支援職員、当事業所職員が参加し、ホームの状況や行事などの連絡等を報告し、意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えるながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する事や書類に関わる事などについて管理者が連絡を取り合い協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階玄関は内側からロックなく出れる様になっている。3階EVについては事故防止の為、ボタン前に使用の際に職員に声を掛けて頂ける旨の貼り紙をしているがいつでも使用出来る環境にしている。声を掛けてもらう事があれば外出の支援を行っている。またEV前にセンサーを設置する事で読み忘れた方への対応も取れている。身体拘束はしていない。意見を話し合う環境の中でケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、事業者内で研修会を行っている、外部研修も書面にて開催の詳細を掲示し参加を勧めている。業務の中では職員同士が話し合える環境の中で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーが中心となり職員同士で話し合い、必要であれば活用して頂ける様に説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退きの契約や入居中の改定等の説明は管理者、リーダーが対応し、ご理解、納得が得られる様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の要望は日々のケアの中から集め、その後の支援内容に反映されている。ご家族様については面会、行事などの際に意見を頂き、反映して行ける様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個人とは管理者、リーダー、当職員での三者面談を年3回行い、その場で意見や思いを聞く場となっている。また月1回行う全体会議では全体を通じての意見を話し合う場となっている。法人としてアンケートも実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年間を通じて目標を立ててもらいその目標について管理者、リーダーはバックアップ出来る様に努めている。毎年の給料ベースアップや資格取得での手当なども支給している。リフレッシュ休暇、有給が取れるシフト体制を整え実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で月1回内部研修を実施している。外部で行われる研修についても積極的に参加出来る様に案内を掲示し参加を勧めている。日々の業務の中では意見を出し合いより多角的にとらえ、スキルアップに繋がる職場作りを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修、法人の別事業所職員の研修受け入れを行っている。他法人の講師を招いての研修会や、当職員が講師となって他法人で研修会を実施するなど同業者同士での交流やサービス向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回情報の共有を行い、実際に入居されてからは各職員が気づいた事、ご本人様の声をノートにまとめ不安の軽減に繋がるケアを目指し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の段階よりご家族様の思い、不安を伺い、当事業所ではどの様に支援して行けるかを話し合っている。入居初期には面会の際に生活の様子や当職員が感じた事を伝え、その事柄に対しご家族様の要望に耳を傾けケアに取り入れ、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の要望を傾聴し、当事業所で対応できる事については勿論の事、他サービスについても提示して要望に対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の会では新聞の見出しについて他愛もない話をしたり、食事の準備、一緒に食べる、後片付けなど暮らしの中で共に笑顔に溢れ一体感のある生活を送って頂ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を報告した中でご家族様の意向や要望を傾聴しケアに繋げる事で事業所とご家族様で共にご本人様の生活を支えて行ける関係を築いている。又行事への参加も勧めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢に伴ったADL低下により回数は少ないが、ご家族様と共に自宅へ外出したり、行事で昔の思い出の場所へドライブに行くなどしている。ご家族様や友人とは面会、電話、手紙などを通じ関係が継続出来る様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を各職員が把握し、無理なく共同生活の中で他者との関わりが行える様に、又支え合える様に職員はその架け橋となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も経過を把握し、必要に応じて連絡を取り相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中でご本人様の意向や思いを各職員が共有出来る様にノートを活用して話し合い、ご利用者様本位な生活が送れる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の情報やセンター方式による個人の情報を個人ファイルにまとめ、各職員が閲覧できる場所に保管し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送り、受診メモなどで記録に残し状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは面会の際に近況報告を行い今後の対応について意見を伺っている。月に1回の707会議では変化する状態に対し意見を出し合い、モニタリングへ反映し、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づいた事を記入するノートを活用している。勤務時には目を通す事を義務づけ意見を出し合っている。ケアプランについても共有の中で実践出来る様に、印を押す事で把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設にはOT、PT、STが常勤しており必要であれば、評価を依頼し適切なサービスで支援出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回数は少ないが、ボランティアによる演芸会の実施や、町内会の行事への参加など出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	西円山病院では定期受診以外にもその状況に添った他科受診の対応を行っている。ご本人様、ご家族様には受診に際し報告をして意向を伺っている。馴染みのかかりつけ医が居る場合には継続して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡帳の使用や申し送り、業務内での気づき等についてのコミュニケーションにて報告を行い情報を把握した中で指示の下対応している。また看護師が休みの時でも緊急性が高い場合には電話連絡にて指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者、リーダーが中心となって医療機関との情報交換を行い、その情報を職員に伝え共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化し今まで行っていた支援内容が難しくなってくると予想される段階でご家族様へ当事業所から出来る生活支援について相談、説明を行っている。またご相談があれば、当事業所以外でどのようなサービスが受けられるか等情報を提供している。終末期については現在、当事業所では行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを常に見れる場所へ掲示している。事業所内研修でも緊急時の対応について研修を定期的に行い知識向上に繋がっている。訓練としては行っていないが、体調不良や転倒事故の対応については何度も実践しており、実践能力は身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、日中、夜間の火災想定で行っている。土砂災害については研修の中で避難手順、地域の状況、協力体制など説明を受けているが、訓練は出来ていない、火災時程把握は出来ない様に思う。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格、生活のペースを大事に、意向に沿った支援を心掛けている。特に配慮が必要な更衣、トイレ、入浴介助では、ご本人の気持ちになり環境の配慮を徹底し、声のかけ方、対応を実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様とのコミュニケーションの時間を大切にし、信頼感に繋がる事で希望や思いを表しやすい関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを尊重し、どう過ごしたいか何う様な声掛けを心掛け、なるべくその意向に沿った生活が送れる様、職員はその日その日で臨機応変な対応に努めている。また自己表現の難しい方にはいくつかの選択肢が生まれる様な声掛けをした中で自己決定に繋がる様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際にはどの洋服にするか希望を聞き対応している。ご本人様が忘れがちになってしまう散髪についても期間をみてこちらから伺い定期的に対応している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し対応している、咀嚼能力に合わせ形状を変え無理なく食べて頂ける様な対応も行っている。行事の際などには出前や豪華な食事で楽しんで頂いている。準備や後片付けはご本人の意向を伺い無理なく参加出来る様に努めている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し変化がいつでも分かる様にしている。月1回体重測定を行い著しい変化があれば看護師へ報告している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせて、プライバシーに配慮した中で出来る方には声掛け、確認を実施。難しい方については介助する事で清潔を保てる様に支援している。口腔内トラブル時には歯科受診の対応も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、安心して排泄できる個々にあったトイレ内環境にも気を配っている。パット開始前には協議をして、排泄パターンの把握、誘導対応を試みるなど、すぐにパット使用に繋がらない様な思いを持って支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、乳製品の提供、水分摂取の声掛けなどを行い便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には必ずご本人に確認し対応している。拒否の際には無理強いせず足浴や清拭で対応している。またその様に拒否が頻繁にある方についてはご家族様にも説明し了解を得ている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ユニットである利点を生かし、個々のプライベートは確保でき、安心した休息がその方のペースでとれている。布団の衣替えや包布の清潔、室温調整なども行っており安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について一覧表を使用し、薬の使用状況が一目で分かるようにしている、また処方箋も個別にファイリングし情報を共有している。管理体制として日付記入やライン引きと共に服薬マニュアルを周知徹底し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体での活動だけでなく、趣味嗜好にそった個人レクを実施し充実感のある生活が送れる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	場所柄、外出する事は多くないが、天気のいい日には外の花壇や春には桜を見に行ったりしている。買い物等は希望があれば西円山病院の売店に付き添いし対応、屋上から札幌市を一望したり、喫茶店でお茶をしたりし喜ばれている。全体としては年間行事に外出を組み込み好評を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭についてはお小遣いとして当事業所で預かっている。ご利用者様にも預かっている旨を説明し希望があれば付き添いの下買い物の際に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には居室に電話を設置出来る環境を整えている。手紙についても届いた際はご本人に渡している。頻繁に手紙のやり取りをされている方はいないが、年賀状にご本人様より一言(書ける方は)そえてご家族様に出すなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースとしてはリビング、食堂、廊下、洗濯室、浴室とあるが全てにおいてご利用者様が安全で過ごしやすい空間作りを意識し家具の配置などの考慮している。EV前やリビングには季節を感じて頂ける様な装飾を楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	吹き抜け横の廊下にはイス、テーブルを設置し休まれている場面が見られる。リビングで気の合った方と談笑されている場面も多い。一人掛けのソファも用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの家具をすすめ自宅での空間に近づける居室作りに努めている。個々で部屋の様子は様々で、趣味嗜好によって飾り付けされたり、その方の為の居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々で出来る事、やりたい事を把握し、その活動が安全に、楽しく、無理なく行える様な環境整備に努めている。		